

5 青少年教育指導者等の養成及び資質の向上に関する事業  
 ウ ボランティア養成・研修事業  
 c ボランティアによる自主企画事業

令和7年度 大学生のためのボランティア活動推進事業  
 自主企画事業支援プロジェクト

〔主催〕 国立諫早青少年自然の家

〔期日〕 令和7年12月6日（土）～7日（日） 1泊2日

〔活動場所〕 国立諫早青少年自然の家




〔参加者〕 小学4～6年生 34名

〔担当職員〕 高山 雄也、中里 文彦、吉田 流風、日高 由樹

1) 事業の趣旨

小学4～6年生を対象に、オリエンテーリングやクラフトなどの自然体験活動を通して、仲間とコミュニケーションを図りながらミッションに挑戦する力や、自分の考えを伝える力を育むことを目指します。

2) SDGs で目指す姿

 <p>4 質の高い教育をみんなに</p>	 <p>15 陸の豊かさも守ろう</p>	<p>目標4 質の高い教育をみんなに        様々な自然体験活動を通し、自ら考える力を養います。</p> <p>目標15 陸の豊かさも守ろう        自然と触れ合う活動を通して、自然の大切さを感じる機会とします。</p> <p>目標17 パートナーシップで目標を達成しよう        仲間と困難に立ち向かい、声を掛け合いながら、達成する喜びを味わいます。</p>
 <p>17 パートナーシップで目標を達成しよう</p>		

3) 研修プログラム

1日目 12月6日（土）	2日目 12月7日（日）
9：30 受付 10：00 開会式 10：15 仲良くなろう 【写真1】 (アイスブレイク) 10：35 安全指導、オリエンテーリング説明 11：00 オリエンテーリング 【写真2】 ～昼食（持参弁当）～ 14：00 野外炊事（ナンカレー） 【写真3・写真4】 19：00 星空観察 19：40 ふりかえり 20：00 入浴・就寝準備 21：30 就寝	6：30 起床 7：15 朝のつどい 7：30 朝食 8：00 清掃・片付け・活動準備 8：45 退所点検 9：10 クラフト活動（フォトフレーム） 【写真5】 11：20 ふりかえり 11：50 閉会式 12：00 解散

#### 4) 事業展開

<p>① アイスブレイク【写真1】</p>  <p>「せーのであつまれ」や「言うことやること」などいくつかのアイスブレイクで仲を深めました。最初は参加者もボランティアも緊張していましたが、アイスブレイク後はたくさんの笑顔が見受けられました。</p>	<p>② オリエンテーリング【写真2】</p>  <p>タラッキー探検隊として、オリエンテーリングを行いました。班で協力して謎解きや写真探しなどのゲームをクリアして、野外炊事の食材をゲットしました。</p>
<p>③ 野外炊事 安全指導【写真3】</p>  <p>野外炊事の安全指導では、ボランティアが説明しながら、お手本として事業に複数回参加してくれている参加者に薪割りをしてもらいました。</p>	<p>④ 野外炊事【写真4】</p>  <p>オリエンテーリングでゲットした食材で、ナンカレーを作りました。薪割りや火起こしをしたり、食材を切ったり、班で役割分担しながら協力して美味しいナンカレーを作りました。</p>
<p>⑤ クラフト活動【写真5】</p>  <p>どんぐりや落ち葉で、オリジナルのフォトフレームを作りました。2日間の思い出を振り返りながら作成し、完成後は班で写真を撮り、フォトフレームに写真を入れ、形として思い出を残しました。</p>	

## 5) 評価

### アンケート結果

#### 事業全体に対する満足度

とても楽しかった	楽しかった	あまり楽しくなかった	楽しくなかった
88%	12%	0%	0%

## 6) 成果と課題

### ① 成果

- ・ボランティア各々が考えた活動を1泊2日ですることができ、参加者はもちろん、ボランティアとしても充実した自主企画でした。
- ・オリエンテーリングは食材探しで野外炊事につながる工夫があったため、参加者が飽きずに楽しめていた様子でした。
- ・活動ごとの安全指導は、事前踏査や前泊での他のボランティアや職員の助言を活かして行うことができました。
- ・それぞれの活動にオリジナルが組み込まれていたことによって、参加者だけでなく、ボランティアも一緒に楽しむことができ、参加者の目線に立つことができました。
- ・全体的に時間の余裕があり、細かな点にも目を向けることができました。

### ② 課題

- ・野外炊事やクラフト活動で時間的に余裕があったため、その時間は何をするか、先を見て考えておくべきでした。
- ・1日目はボランティアが介入する場面が多く見受けられ、どこまで援助するか、どういった声かけが必要か、状況に合わせて対応できる力が必要でした。
- ・参加者が話をする人にすぐ注目できるように合図の工夫をしたが、2日間で数回しか実践しなかったため、意識してどの活動でも取り入れるよう、共有をするべきでした。
- ・野外炊事の片付けが予想以上に時間がかかったため、参加者がメリハリをつけられるような声掛けの工夫が必要でした。